

進路のしおり

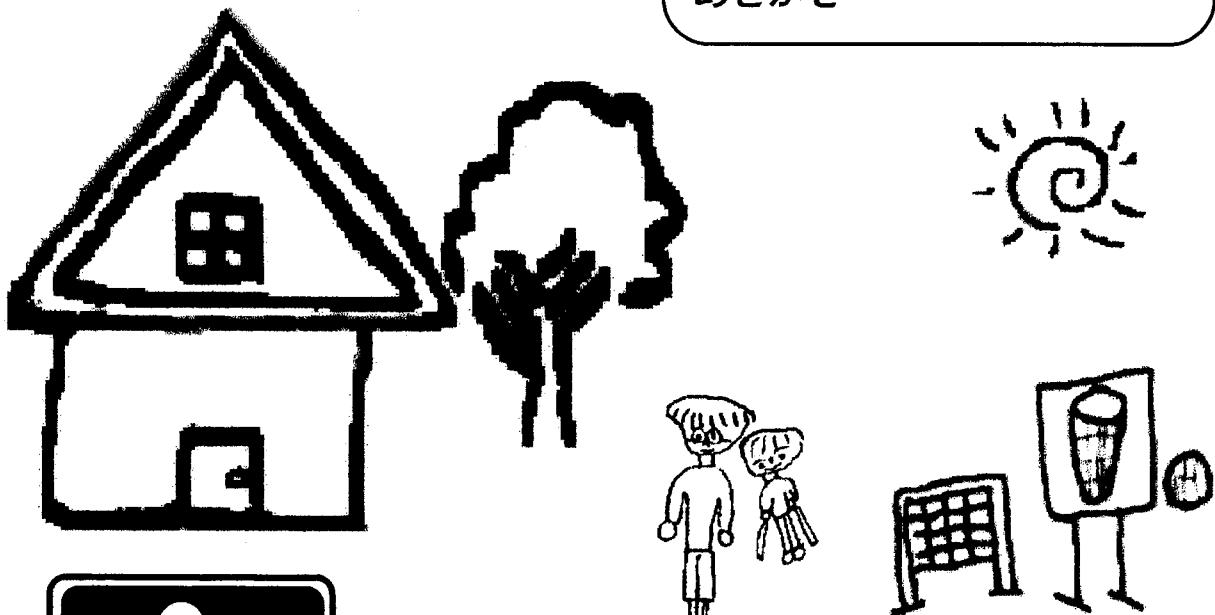
特集 「地域で生きる=すまい・あそび・すけっと」

目次

すまい	2～5
あそび	6～9
すけっと	10～13
資料	14～15

・障害者プラン
・施設紹介　・進路先一覧

あとがき



- 埼玉県高等学校進路指導研究会
- 障害児教育部会・肢体不自由養護学校小委員会
- 埼玉県肢体不自由養護学校進路指導研究会
- 埼玉県肢体不自由養護学校校長会

施設で楽しむ

- ・身体障害者療護施設

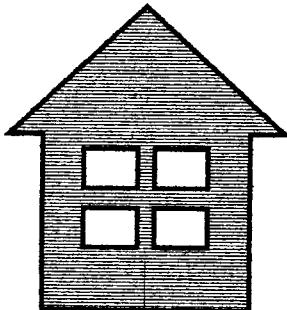
常時介護を必要とする身体障害者

50名の方が入居し、自治活動や

入居者もボランティア活動
—「大樹の里」施設

以前は入所施設のイメージは、「収容施設」という観がありました。しかしここでは、利用者が主人公になり住みやすい場所にしようと、いろいろな活動に取り組んでいます。

障害のある人達が豊かに暮らすための「すまい」には、様々な条件が必要になります。現在、障害のある人達が暮らしている「すまい」のかたちやそこに住んでいる人達の様子を紹介します。



• 身体障礙者療護施設

常時介護を必要とする身体障害者が入居し生活する場。大樹の里には現在50名の方が入居し、自治活動や地域活動、クラブ活動などを行っています。

入居者もボランティア活動

- 「大樹の里」 施設長 -

以前は入所施設のイメージは、「収容」という観がありました。しかしここでは、利用者が主人公になり住みやすい場所にしようという理念のもと、いろいろな活動に取り組み成果をあげています。

たとえば、日常生活や諸行事、イベントなどの企画や運営を自治会が行ったり、利用者が、自分たちでできる地域活動やボランティア活動（空きカン拾い、小学校校門前での立哨活動、在宅障害者の安否確認活動等）を行ったりして地域社会での活動に生きがいや喜びを見出しています。

また、ここはボランティアの出入りがたいへん活発でもあります。その人数は1日平均6～5人。年間なんと2400人にもものぼります。ボランティアの皆さんには、クラブ活動の講師や外出時の介助、自動車の運転、清掃活動などををお願いしています。

主人公は自分たち

一入居者・自治会長、副会長一

たくさんのクラブ活動があるようですが。

現在は、音楽、詩吟、手芸、皮工芸、書道、短歌、絵画、園芸、民謡、水墨画、将棋などのクラブがあり市内や近郊の大会に参加をしたり、展覧会に出展したりしています。講師は地域のボランティアさんなどに依頼し、地域の皆さんも参加をして一緒に楽しみながら活動しています。

ここでの生活で、不便に思うことは何ですか。

ここは外出が自由です。電動車椅子やキャブを使って外出しています。しかし、車の運転手さんの人数に限りがあり、思うように外出できないのが悩みです。

健康安全面での不安はありますか。

看護婦さんが日勤で常駐し、服薬の管理や健康相談などやっているので安心です。また、市のリハビリ教室へも積極的に参加するようになっています。

部屋割は、どのように決めていますか。

利用者が話し合いで決めています。ほぼ3年間で部屋割を替えますが、問題等が出た場合は隨時、対応する形をとっています。
(ほとんど1部屋4人利用)

介助者が配慮して欲しい点は。

基本的なことですが、どういった介助が必要なのか介助される側に立って理解をしてほしいこと、プライベートな面にまで立ち入ってほしくないんですね。

それと、常識やマナーを持って接してほしいことです。

役割をもった生活を

—生活指導員—

ご本人も障害がありながら直接入居者と接し、相談活動などの援助をしています。

ここでは、施設を家やアパートと考えています。職員や入居者はすべて○○さんと呼び合うようにしています。プライベートな面も保障していきたいのですが、障害が重度になるとお互いに助け合うという面で個室というのも難しいのが現状です。

また、生活すべてが施設の中で行われるため、目的を持った生活や活動意欲という点で課題がありそうです。このことは批判だけで終わらずに、今後どのようにしていくのか考えていくことが大切でしょう。できるだけ何らかの役割や生きがい、楽しみを探しながら生活していくようにしています。

そのような活動の中で、地域社会の人たちも入居者の存在を認めているようです。

連絡先

身体障害者療護施設「大樹の里」

TEL 0429-64-3965

アパート

☆篠原由美さんのプロフィール

高知県室戸市で双子の妹として生まれ、父親の仕事のため1歳のとき広島に転居。小、中学部は養護学校で寮生活をおくる。高校は自宅から通える私立高校を受験。卒業後、職業訓練校で1年間縫製を習う。その後、在宅生活を送りながら地元の社協に出入りしているときに大学の通信教育のことを知り入学。父親の仕事のため大阪、東京と引っ越すが、大学は社会福祉学部を9年間かけて卒業。現在日中の活動として東京都の生活実習所(福祉團)に通所している。

アパート暮らしのキッカケ

東京に慣れたころ、父の四国への転勤の話が決まり、「付いてくるかどうか決めろ。」と言われました。その時は大学の4週間もの現場実習を控えているときで、頭はそのことでいっぱい。「返事は1ヶ月待ってほしい」と答えて現場実習に入りました。この実習が一人で暮らせるキッカケにもなったようです。

通勤することが無理なので、好意で寮の部屋を借りることができましたが、食べることや掃除、洗濯等生活に関する事は自分で考えなければなりません。食事は出前やコンビニのお弁当等で済ませる方法を思いつきました。身のまわりのことは時間さえあれば自分でできたので、部屋があって時々掃除などをしてくれる人がいれば独り暮らしは出来ると漠然と感じました。

この4週間で、多くのことを考えたり、経験したので大きな自信になりました。



アパート探しに四苦八苦

アパートを探し始めたものの、親に心配させたくなかったので、福祉園の帰りや遅刻したりして探しました。でもほとんどの不動産屋は門前払い、ドアも開けてくれませんでし

た。話を聞いてくれても「あんたみたいな人が一人で暮してどうするの。」と言われ、社会の厳しさを思い知らされました。2～30軒回ったところやっと一軒見つかりました。

その時、はじめて父母に話をして、父と一緒に物件を見に行きました。父は「静かすぎて夜など出入りするのに物騒だから他のところがいいじゃないか」とか「他にも沢山あるから」と言い、障害者や高齢者に物件を紹介しなくとも不動産屋はやっていけるし、貸してくれる所などめったにないという社会をわかろうとしました。しかたなく父と日曜日に不動産屋回りをして、たいへんさをやっとわかってもらいました。

生活するうえでの改造

アパートの入り口には段差があるため、鉄板を乗せてスロープにしたり、電動車椅子を外でも充電できるようにしてもらいました。流しの水道のレバーや湯の温度調整器の取り付け、風呂場やトイレの改造、さらには玄関の段差の解消などを改造しました。費用については、重度障害者居宅改善整備費から助成していました。



自宅前の篠原さん

一週間のスケジュール

水曜日と土曜日の午前中は、公的なヘルパーが来ることになっているので家にいます。あとは、自立生活プログラムのある水曜日と金曜日は、出かける前に介助の人に来てもらい、食事作りや雑用をします。その他の日は、福祉園に通ったり、ピア・カウンセリングや自立生活プログラムのリーダーたちの集まりで国立や町田・田無などにでかけます。土・日曜日は、電動車椅子サッカーや、社会福祉士の国家試験のための講習会にも出かけています。その他の夜は、たまに障害者運動のいろいろな集まりにも出かけたりしています。

アパート暮らしをしたい
と思っている人に

- ・仲間（障害者・健常者とも）をいっぱい作っておくこと。
 - ・自分の話を聞いてくれる人を持つこと。
 - ・現在生活をしているいろいろな人から話を聞くこと。
 - ・悩んでばかりいないで、決心がついたら思い切ってはじめてみること。
 - ・日曜大工の好きな人を友達にすると良いこと。

暮してみて

- ・アパート暮らしを始めたら、家には絶対に戻らないということではなく、ときには、兄弟の家に遊びに行くとか、親元に帰るとかがあっても良いと思います。また、パソコンで遊ぶなどいろいろな生活の楽しみ方があるので、その人なりに工夫してみるのもよいでしょう。

自立生活プログラム

障害のある人達が自立した地域生活が営めるように手助けする教育プログラム。アメリカから始まった自立生活センター運動の柱の事業。

ピア・カウンセリング

自立生活センターで実施している活動の一つで、障害をもつている仲間同士が主に自立生活をはじめるときなどに伴う悩みなど、相談しながら問題解決していくこと。

遊びは人生のスパイス

あ
そ
ひ

「あそび」は、人生を豊かに過ごすためには無くてはならないものです。人生を味わうことに障害もない関係ありません。しかしながら今まで障害のある人達にとって、遊びは訓練であったり、遊ぶこと=人生を豊かにすること、まで想いが及んでなかつたのではないでしようか。ここでは遊びに対する考え方、実際の様子、遊びへのお誘いなど、人生をより豊かにしていくためのヒントをあげてみました。

・自立生活プログラムでは遊びを重視しているそうですが、それはなぜですか?

今年42歳。7年前に埼玉から町田市に転居。町田ヒューマンネットワーク（障害者自立生活センター）の常勤職員で自立生活プログラム担当。仕事のかたわら音楽グループ“ポピーズ”や障害のある人たちで構成している劇団“態変”などの活動をしている。高性能の電動車椅子で街を闊歩。妻と子ども二人の4人暮らし。

でいきます。ところが障害者の脅ちの中では、遊びが訓練だったり、子ども同士の関係が奪われてしまっていたりします。そこで技術的なことよりも生活する意欲を引き出すために、みんなで遊びにいこうということで、遊園地に行ったり飲み屋にいったりしています。

・関根さん自身で遊びについての小さい頃の想い出はありますか？

・関根さん自身で遊びについての小さい頃の想い出はありますか?

近所の友達とは外で真っ黒になって遊んでいたけど、学校では「コマ回し」など訓練としてやらされたことを強く覚えています。コマ回しに興味がなかったわけではないけれど、それはもう遊びでも何でもない。僕は、歩くこととリハビリを捨てたとたん、自由になつたような気がします。

・「ポピーズ&フレンズ」 というバンドや障害者の劇団「態変」をやってい
るそうですが

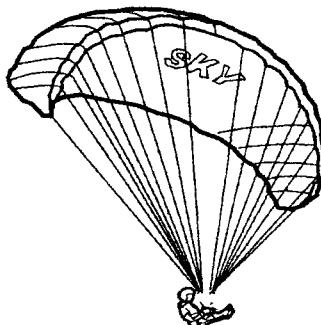
自分史の中で、音楽に出会ったり、演じることに出会ったりしました。仕事だけの生活ではないところで自分を表現することは、自分を豊かにする意味でとても大切なことだと思います。養護学校卒業後仲間とグループを結成し、障害者が自分自身の生活や想いを歌うプロテストソングとしての活動をしたり、演劇では「生命」ということをテーマに自分の不自由な体を使って生きることの大切さを表現していきたいと思っています。

・とってもアクティブな関根さんですが、その信条はなんですか

まずは、生きたいように生きるということ。
今まででは障害があるが故に、訓練やリハビリを強制されてきた。障害を個性として考え、できるだけ同世代の仲間とたくさん遊び、多くの経験をしてほしいと思う。そこからなにがしたいのか、どう生きたいのか生まれてくるのではないだろうか。

・最後に根さんにとって「遊び」とはなんですか

人生の半分は遊びなんだろうと思う。遊びは本来無目的、でもその中で結果として仲間同士の関わりや共通の体験から関係性の深さが生まれてくる。人生には、遊びと遊び心が必要ではないだろうか。人は夢が無くては生きていけない。それは障害者もなにも関係ない。自分自身の人生を豊かに生きるためにも、自分自身を取り戻すためにもたくさん遊んでたくさん夢を持ってほしいと思う。



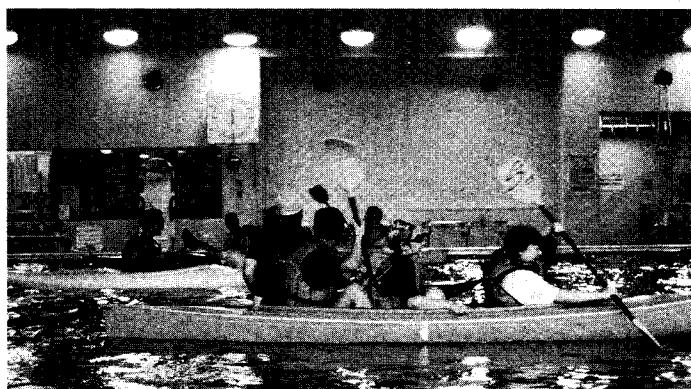
サークル活動

力又一教室

「障害がどうであれカヌーは誰でもできます。一度やつたらやめられなくなりますよ。」

指導者や、ボランティアと共に笑顔の中、プールで水しぶきをあげていました。この教室は、アウトドアクヤンプの1つのイベントとなり、また荒川で行われているサークル活動へつながっていくそうです。

障害の程度、経験の有無に関係なくできるのがこのスポーツ。「できないのでは、と憶病がらずにまずはやってみましょう。」とみなさんおっしゃっていました。



スポーツカイト

僕がスポーツカイトを始めたのは2年前です。最初は「凧揚げなんて」と思っていましたが、1回揚げさせてもらうとすごく楽しいのです。なんと言ってよいか、風に引っ張られている感じで今まで味わったことのない楽しさです。

このカイトは走り回らなくても、糸を引くだけで揚がっていくので車椅子でも簡単に揚がるし、糸が2本あるので空を自由自在に動かせます。僕は片手なので2本は持てません。そこでハンガーの端に糸を付けてやっています。

これは、1年中出来るとは限りません。やはり風の強く吹く季節に活動します。5月の連休明けや、11月の木枯らしの吹く頃がカイトを気持ちよく揚げられます。

アクティブジャパン

障害があるなし、重い軽いに関係なく、スポーツそれ自体を楽しめるように、また人々が目標として設定できるようなトップレベルの人や情報を紹介することを使命として発刊、年4回発行されているスポーツ誌。

問い合わせ先 (株)メディアワークス

TEL 03-5281-5218

FAX 03-5281-5223

■障害者交流センター (福祉センターA型)

TEL: 048(834)2222

浦和にあるこのセンターは、障害者のスポーツ、レクリエーション活動の援助を通じ、地域のサークル活動へ結びつける活動をしていく所

の援助を差し、地域のナショナル活動・ giochi ライブの活動を行っています。
また「マイクアップ教室」「料理教室」など日々の生活の充実を図る講座なども行っています。

Figure 1. A photograph of the same area as Figure 1, but taken at a later time. The vegetation has been removed from the area.

場所もどこでも良いとは言えません。空き地や原っぱはダメです。なぜかと言うと、風の吹く方向が度々変わるからです。どうせ揚げるなら、土手がお勧めです。眺めがよいし、風が強いし、邪魔になる物もありません。

揚げに行くときに必ず持っていく
ものが、サングラスです。ずっと上
を向いていると太陽が眩しいので、
サングラスは必需品です。見た目にかっ
こいいのでスポーツカイトファッショ
ンかもしれません。

僕は、カイトを始めてから風が好きになりました。早く自分のカイトを買って、本格的にやろうと思います。

(〇養護学校卒業生 Mさん)



■遊び仲間に家庭教師を！

「うちは家庭教師をお願いしています。」K君の母親からこのような言葉を聞きました。詳しく聞いてみると、学校という集団だけでは仲間関係が限られているので同世代の人に家庭教師をお願いし、その年代の話題を提供してもらったり一緒に遊んでもらったりしてもらおうと考えたからだそうです。

一般の子どもも家庭教師や塾に行ってするのが当たり前の世の中だからこれぐらいは…。とお母さんのことば。趣味の将棋の相手や野球観戦に同行してもらい、楽しい時を送っています。

これも生活を拡げ、豊かにしていく一つの方法ではないでしょうか。

旅 行

養護学校在学中のある家族の海外旅行の例を掲載しましたが、近くの河原で家族と一緒にディキャンプで自然を楽しむとか、電車に乗っての小旅行など、身近なところで小さな旅気分を味わうのも心のリフレッシュになります。



ドイツ旅行

夏休みを利用して、家族でドイツ旅行にいってきました。

ライン川沿いの両岸に多くの古城がある伝説の地ローレライ。ロマンティック街道の中心で中世の城壁や木骨造りの家並み、石畳の道路のローデンブルグは、絵のように美しい都市でした。古城街道のハイデンベルグ城は、山の斜面に築かれ中世の戦争で壊されたままの姿を見せてくださいました。

有名な高速道路アウトバーンは、一部区間をのぞき速度は無制限で、料金所がないので、一度も渋滞がありませんでした。4車線のまっすぐの道路がどこまでも続くので車に酔うこともなく、すてきな景色をたくさんみることができました。

旅行するにあたり、梅雨明けの暑苦しい日が続いたので健康第一にと考え、日頃の訓練を十分行いコンディションづくりに努めました。

さて、旅行会社や航空会社へは、事前のコンタクトとして障害児がいる旨を伝えました。そして、希望として機内食をきざんだ状態にしてもうこと、機内用車椅子の手配をお

願いました。また空港では自分の車椅子でどこまで行けるのか確認したところ、機体のすぐ近くまで行けることがわかり安心しました。機内の椅子は一般の方と同じなので、抑制帯やクッションを持ち込み、姿勢を保持するようにしました。飛行中は、クルーの方々がなにくれとなくお世話をしてくれました。

ドイツ国内ではレンタカーを利用して移動したのですが、「駐車禁止除外指定車両」の英文訳と、取り外し可能な「障害者マーク」を持っていくとよいと思います。観光地では、一般的の車より近いところに障害者用駐車場があり、無料でした。

食事についてはメニューを細かく説明してもらい、子どもが食べやすい魚料理、ジャガイモ料理などをおいしく食べてきました。レストラン、ホテルなどには障害者用スロープが必ずあり、段差がないので車椅子の移動はとても楽でした。

町中で1ボックスカーの後ろへ板2枚を置き、スロープで簡単に乗り降りできるタクシーを見かけました。これを利用し、中年の障害者と奥さんがピザ屋で仲良く食事をしているのです。うらやましい限りでした。また他の障害者ともすれ違いましたが、車椅子のカラフルで機能的な様子にびっくりしました。

私たちの場合ドイツ人の友人ご夫婦が案内や通訳をしてくれ、ドイツの家庭料理なども味わうことができました。言葉のない息子ですが、お互いの笑顔で心が通じ合ったようです。中学2年の夏、心と体と今後の生活に大きな何かをもらうことができました。そして、ドイツの人々の優しい心もいただいてきたような旅行でした。

(W養護学校 O君母親)

トラベルネット

JTBやゼンコロなどが共同出資して作った旅行会社。障害者や高齢者など、今まで旅行を楽しむことの対象になりにくかった人たちをサポートするために設立された。障害当事者のノウハウをもとに修学旅行やバック旅行なども企画している。

連絡先 株式会社トラベル・ネット
TEL 03-3204-8901
FAX 03-3204-8827

パソコン 通信

■生活の一部として

僕は、高等部を卒業するまでは、パソコンを使って在宅での仕事に就こうと思っていました。そのために、埼玉県リハビリテーションセンターに入所し、パソコンの勉強をしました。

勉強をしている間に、パソコンを使った仕事に就くには相当の技術と体力が必要とわかりました。それならば、趣味にパソコンを使おうと思い、パソコン通信の勉強を主にやってきました。

パソコン通信をやってみて、よかったです。

自分のことに同意してくれる人や、逆に自分の思っていることに反論してくれたりして、健常者、障害者も関係なく、外に行けなくてもいろいろな人とコミュニケーションが持てます。パソコンなどやっていると、自分ではわからないことなどほんの少しヒントをもらって解決したことなどがあり、今では生活の一部として、かなり役に立っています。

これからも、パソコン通信から得られる情報を生かし、普段の生活を楽しんでいきたいと思います。

(○養護学校卒業生 Fさん)

HOW TO パソコン通信

僕がパソコン通信を始めて、一番よかったなあと思うのは、いろいろな所に住む人と、電子メールを使って話ができるということです。それは、一人では自由に外へ出歩くことのできない僕にとって、画期的なことでした。学校の先生や友達、家族以外の人と話ができるとてもうれしかったです。

パソコン通信を使って他の人と話をするには、いくつか方法があります。

電子メール

メールを送りたい相手のＩＤ（住所みたいなもの）がわかれれば、相手がパソコンの電源を切っていても大丈夫です。文章を書き込んでおけば、電源が入った時点で相手の所へ送られる仕組みになっているからです。

オンライントーク

何人の人が、一つの部屋に集まって会議をするという感じです。普通に話をすると

パソコン通信とは？

パソコン通信とは、簡単に言えば電話やFAXの持つ機能をもっと広げたものと考えられます。ただそれらとの違いは、話し相手が一人ではなく複数でもできること、情報を貯めておけるのでいつでも通信ができることがあります。似たものにインターネットというものがありますが、これはメンバーとして登録されている特定の人を対象としているパソコ

ン通信に対し、不特定多数の人を対象としている点で違いがあります

やり方等詳しく知りたい場合は、実際にパソコン通信をやっている方に相談するのが一番良いと思いますが、市販されている書籍もたくさんあります。

A decorative horizontal bar consisting of five black L-shaped blocks, arranged side-by-side to form a stepped pattern.

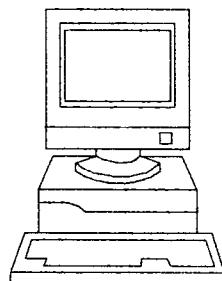
同じ趣味を持った人が集まる、クラブやサークル活動のようなものです。映画や音楽、ス

シグ・チャット

同じ趣味を持った人が集まる、クラブやサークル活動のようなものです。映画や音楽、スポーツなど、ジャンル別に分かれた様々な部屋があります。

パソコン通信をしていて僕がうれしいのは、事情があってメールを入れられなかつた時、久しぶりに通信をやってみると、相手の人が心配して「どうしたの？具合でも悪いの？」というメールを入れてくれることです。そういう時にパソコン通信を始めて本当に良かつたなあと思います。

(O養護学校高3 A君)



本の紹介

障害者のパソコン・ワープロ通信入門

みんなのわがいネット 編

全國障礙者問題研究會出版部

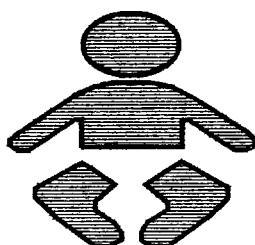
03-5285-2601

1994.7.30発行

生活の中に介助者を

すけつと

「人の手を借りて、自分のしたいことをする」こんな生活方式があつてもいいと思いませんか。実際に人の手を借りて自分の人生を豊かに生きている人や、また障害のある人たちなどに手を貸すことによって生活を楽しんでいる人。さりげなく手を借りる人、貸す人、それが地域のつながりになつているようです。



生活の中に介助者を 入れて暮らす

私の生活でとても重要なのは「介助」のことです。浦和市に住むと、365日、朝7時から夜11時まで、一日五時間程度に切り張りで（例えば朝2時間、昼1時間、夜2時間というように）ホームヘルパーが派遣されます。私の場合、曜日にもよりますが、朝8時半から2時間、夜10時から1時間の派遣になります。これ以外に私が所属している障害者団体「虹の会」から派遣される介助者が夜8時から2時間入ります。

私は低所得世帯なので、ヘルパー派遣の費用はかかりません。ただヘルパー制度だけだと突発的に必要になる介助や、長時間の外出介助はできません。浦和市ではヘルパー制度の他に、「身体障害者ガイドヘルプ事業」というかたちで介助料が最高70400円（時給1100円×64時間）出るので、その制度を使って虹の会から介助者を派遣してもらっています。

介助内容は生活全般（掃除・洗濯・調理・入浴の部分介助etc）になります。私は基本的に、たくさん時間をかけなければ一人でできてしまいますが。しかし、1時間かけて着替えをし、2時間かけて掃除機をかけ、毎食2、3時間かけて食事の準備をしていたら、一日24時間ではとうてい足りません。基本的な生活をするだけで精一杯になってしまふからです。

豊かな生活を

社会的活動、文化的活動も、人間にとって大切な活動だということは、皆さんもご存じの通りです。私は、2時間かけてお昼ご飯を作るよりも、人の手を借りて30分でますことを選びました。1時間かけて着替えることより、介助を受けて10分でますことを選んだのです。残りの時間を自分のしたいことや社会活動に使いたいと思ったからです。

一人暮らしをはじめて、家族との関係が一方的に依存する形ではなく、私は私の人生として、家族は家族の人生として別々に考えられる関係が作られたことはとても良かったと思っています。

虹の会連絡先

浦和市下大久保 760-2106
TEL 048-855-8438

街の中の すけっと

近頃思うこと

当初、障害者にたくさん外に出てほしい、障害者も地域であたりまえに暮らせるようになってほしいということで、さまざまな支援を始めました。だが、どうも違うなということを感じ始めました。例えば、障害を持っている人の外出を手伝ったとき、「どこにいきますか?」「さあ、どこにいこうかなあ…(わからない)」「何をしますか?」「うーん、(わからない)」というやりとりがよくありました。そこで次からは、『場』を設定して誘うようにしました。例えば「レストランに行こう」「映画を見に行こう」というふうにです。この時、本人が「外に出よう」とか「何かしよう」と思わない限りどんな介助の制度やシステムが整っていてもだめなのではないかと思いました。

ではなぜ、こういった具体的な欲求なり要望が出ないのでしょうか。今までの生活であまりにも生活体験や友達関係が少なかつたからということが考えられます。もし友達がいたら、友達と遊びに行くとか、友達に会いに行くとかいろいろと出てくるでしょう。「何かしよう」「どこかへ出よう」という『自分の意思』というものは、たぶんさまざまな人間関係の中で育っていくのかもしれません。

望ましい関係とは

介助者・被介助者の関係ではなく必ず必要なのは友達関係・仲間関係です。しかもこの人間関係というのは例えば障害者と健常者を分けた関係ではなく、障害者も健常者もいろんな形で一緒に共に生きている関係がいいのです。それから私たちはつい介助してあげよう、友達になろうと力んでしまいがちですが、本当はただふつうに声をかけ、普通に友達になればいいと思います。

人間関係の中で障害者にも自己決定がなされ、何か行動しようという思いが起きてきて、できない部分を手伝ってもらおうということになり、初めて介助というものが成り立ちます。

木村俊彦さんは三年前に養護学校の教員を辞め、今は「地域で共に・ふくしネット213」という福祉団体の事務局長や、「よろづや」というお店の運営委員をやりながら障害のある人達と共に生きる地域生活のあり方を探っています。

障害をもつ人を通して

作られる地域

障害者には障害を持ちつつ生きていくための暮らしの知恵というものがあります。彼らとつきあっていると、困った時本当に頼りになります。例えば、お医者さんはどこがよいとか、役所とはどうつきあつたらたらよいかとか、生活保護を受けるには手続きはどうしたらよいかとか、いろいろ彼らの“暮らしの知恵”というのは頼りになります。それから障害者を通してつながっていくものがあります。駅の階段で障害者の乗っている車椅子を見ず知らずの人達同志が一緒になって降ろしていく、こういう風景は街に手を貸してあげられるような障害者がいなかつたらみられなかつたことでしょう。こうやって地域が作られていくんじゃないかなと考えています。

■木村さんは今後さらに『どんな共生のありかたがよいか』ということを考えながら、地域活動センターを作り、そこを拠点にして地域全体の福祉活動を応援していくそうです。



「地域で共に・ふくしまネット213」

「障害者の自立生活を促進・援助し、障害者と健常者が共に生きる地域社会を作ること」を活動方針とし ①障害者の就職先の開拓及び障害者が健常者と共に働く店や事業所の運営②地域でのケアシステム ③障害者の生活の場 ④障害を持ちつつ地域で生活するためのノウハウの蓄積と相談の窓口 ⑤障害者が積極的に地域社会に出ていくことによる社会参加の促進 ⑦障害者が地域社会に出ていくための足場作り ⑧その他、障害者の完全参加と平等を推し進める諸活動 等の事業を研究・準備・設立・運営しています。

連絡先：

新座市新座2-4-3 TEL 048-481-3637

介助の制度

障害をもつ人達が地域社会で自立した生活を送ることはあたりまえな願いですが、障害があるがゆえにその生活が大きく制限されているのも事実です。そのために地域生活を援助する目的で様々な制度が整備されてきました。公的なものとして心身障害児（者）ホームヘルプサービス事業、全身性障害者介護人派遣事業などがあります。前者は、家庭内で行われる介護サービス、後者は外出時すなわち社会参加型介護として分けられるようです。その他社会福祉協議会などが窓口になるボランティア活動もあります。

心身障害児（者）

ホームヘルプサービス事業

障害児（者）のいる家庭に対して、介護負担を軽減したり、自立生活を援助したりするためヘルパーを市町村から派遣する事業です。

＜サービスの内容＞

- 1 身体介護 2 家事援助 3 相談、
助言指導 4 外出時における移動の介護

基本的に、国、県では24時間巡回型の方針をとっています。実際には、24時間型をとってもいるところもありますが、まだ多くの市町村は9時～5時という体制が多いようです。

実際に利用したい方は、最寄りの市町村の窓口に相談して下さい。その際に「いつ何時に、何をしてほしいのか」などを、具体的に相談することがポイントです。

全身性障害者

介護人派遣事業

まだ多くの人に知られていないので、これを機会にすでに制度化している市町村の方は利用してください。まだ具体化していない市町村には、制度化の相談をするとよいかもしれません。

これは外出時に利用できるものです。利用する前に介護を必要とする障害者と介護人が一組になってまず市町村に登録しておきます。その利用時間に応じて報酬金額が市町村から介護してくれた方に支払われる仕組みになっています。

要綱では、18歳以上の身障手帳を持つ全身性の障害者で特別障害者手当の支給要件を満たす人が登録でき、介助者には1時間につき1390円（96年度現在）が支払われます。

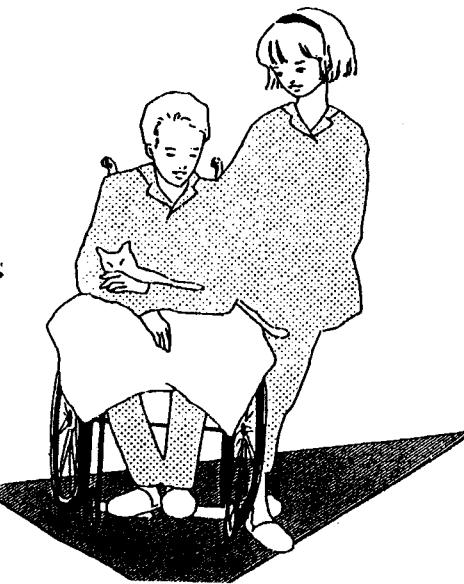
市町村によって多少内容が異なりますので直接問い合わせてください。

在宅障害者生活支援事業

平成8年10月1日より、比企郡全域と東秩父村および東松山市が始めました。内容はレスパイトサービスと療育相談です。レスパイトサービスでは送迎を始め、日常生活全般にわたってサービスが受けられます。1年間150時間無料です。

畠美津子さん(親)の感想

おそるおそるお願ひした一泊の泊まり。私たち夫婦は知人の結婚式で東京へ。二人はすっかり『お上りさん』に変身。帝劇を見たり、はとバスで東京を満喫して帰ってきました。帰途の電車の中、夫の『大丈夫かな…』といううつぶやきも何のその、『とっても元気でしたよ』の先生の一言で吹っ飛んでしまいました。それからは用事を作ってはレスバイトを利用しています。『全く何もできない』と文句たらたらの毎日だったのが嘘のようです。それに何をするわけなくとも安心して預けられるという場所があるだけで、本当に心楽しくなりました。



■埼玉県で1988年に生活ホーム事業が実施されたのを受けて、生活ホーム「オエヴィス」がスタートしました。しかし、障害者が一人で生活することは大変なことです。そこで介助者の募集を始めたことが、ケアシステム「わら細工」の始まりです。

このシステムは介助を労働として位置づけ、利用者がお金を支払うことで、介助を必要とする人と介助活動をする人とを対等な関係で結んでいます。現在12、3名の利用者と140名位のケアスタッフ（介助活動をする人）が登録しています。

しかし、このようなシステムを作ってもいろいろと問題も多いようです。例えば、ケアスタッフ140名のうち約80%が女性で、特に主婦が多いため介助できる時間帯が日中の場合が多く、利用者側からは朝の起床から朝食、そして夕食、入浴と、朝・夕の利用を多く希望していてうまくかみ合わないことです。また、お盆や正月はケアスタッフが少なく障害者にとって大変な時期です。

介助料については、全身性障害者介護人派遣事業、生活保護の他人介護加算等で支払っていますがとても足りません。市町村によって支給金額もまちまちで問題もあります。

くわしくは、ケアシステム「わら細工」へ
お問い合わせください。

《主な民間のケアシステム》

☆「遊TOピア」

熊谷市箱田 325-2

0485-26-6760

→「虹の会」

和市下久保大浦

048-855-8438

マケアシステム「わら細工」

春日部市大場 6 丁目

高校生のTさん

〈将来は老人介護の仕事を考えている女子高生〉

村の社会福祉協議会主催のふれあいデイキャンプに参加しました。ボランティアとはどんなものなのか、どういう時に手助けをすればよいのか、どこまで手を貸してあげたらよいのか、などなど最初わかりませんでした。そのため積極的になれずにいました。そんな時、「障害者の動きを見ていてごらん」「今、何をしたいのか、どうして欲しいのか知ることからはじめてごらん」という母からのアドバイスをもらいました。そして手足が不自由でも車椅子を自由に使いこなすが言葉に障害をもつ人が、自分の意志を伝えようと一生懸命に動作で示している姿にはとても感動しました。やたらに手を貸すのではなく、本当に必要なときに手を貸してあげるのが介護かなと思いました。これからもボランティアにこだわらず、協力していくたいと思います。

大学生のYさん

〈東京国際大学の「紙ふうせん」というボランティアサークルに所属して活動しています。〉

「紙ふうせん」は「体の不自由な子ども達の遊ぶ会が欲しい」というお母さん方からの「声」にもとづいて作られています。活動は月一回の遊ぶ会です。遊ぶ会の一日は子ども達も学生もみんな一緒にになって遊びます。バスを借り切って東京ディズニーランドへも行きました。

私が「紙ふうせん」に入って良かったと思うことは、とにかく体の不自由な方々を知ることができたことです。それまでの偏見が吹っ飛びました。逆に困ることが「えらいね」とか「何でそういうクラブに入ったの」といわれることです。バスケットをしているが「バスケットが好きだから」と答えるように「子どもと遊ぶのが好きだから」ではいけないのかなと考えさせられてしまいます。

施設紹介

県内の施設や団体でユニークな活動や取り組みを紹介します

施設名　・・「おぶすま作業所」　施設長　　坂本　稔さん
「おぶすま生活ホーム」
「かがやき　ウイズ」

運営母体 おぶすま福祉会
所在地 大里郡寄居町富田1452-1
電話 0485-82-4831

おぶすま福祉会では、「地域の活性化及び心身障害者の自立性・社会性の発達・促進を図ること」を目的として、社会に開放された施設を目指して現在奮闘中です。

・心身障害者地域デイケア施設 おぶすま作業所（定員19名）

低、無農薬を基本に、広大な土地で米・麦・茶・季節の野菜など耕作から収穫まで全ての農作業を行っています。新鮮な農作物は、作業所内や町内の店で販売したり、施設内の軽食堂等の食材や自分たちの食事にとフルに活用しています。その他、身体の状態に応じてのリハビリや各種レクレーション、毎月の野外活動や交流会として開催する夏のキャンプ、温泉旅行等余暇活動も充実しています。

・心身障害者おぶすま生活ホーム（定員9名）

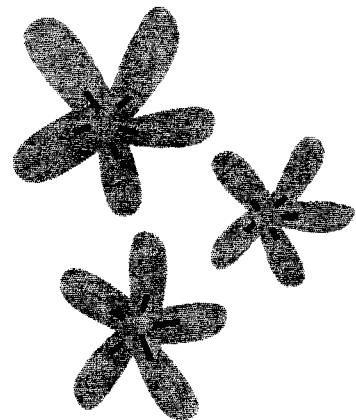
自立と社会参加の訓練場所を提供するケア付きアパートです。全室個室（冷暖房完備）で、最低限の規則はありますが、個人が自由に明るく安心して生活できるように心掛けています。（入居者は身辺自立が可能な方で手帳所持者に限ります）

・給配食、食事サービスセンター かがやきウィズ

作業所の農作物を利用し、予算・希望により仕出し弁当もやっています。施設内に食堂も設置し、地粉を使った手打ちうどんや定食、懐菴も行っています。

埼玉県内肢体不自由養護学校進路状況（6校・高等部卒業生）

	1993	1994	1995
就労	3	3	5
訓練	2	4	2
福祉法施設	13	14	8
地域デイケア	31	31	41
進学	2	—	1
在宅	10	8	7
計	61	60	64



- | | |
|----------|-------------------------------|
| 『就労』 | 公務員、一般の企業など |
| 『訓練』 | 国立職業リハ、小平職業能力開発校など |
| 『福祉法施設』 | 身体障害者福祉法による療護、授産、更生施設（含県リハ）など |
| 『地域デイケア』 | 県条例による無認可小規模施設（定員 6 名から 19 名） |
| 『進学』 | 大学、専門学校など |
| 『在宅』 | 施設入所待機、自宅療養、家事手伝いなど |

あとがき

■学校卒業後、進学、一般就労、通所施設、入所施設、療養、在宅など、さまざまな生活を送りますが、楽しんで生き生きと豊かに生きるということは誰にとっても大切なことです。今回のテーマは、「すまい」「すけっと」「あそび」ですが、卒業後の生活をより豊かに生きるためにノウハウや、実際に自分の生活を大切にし豊かに生きている先輩達の知恵、その為の制度の紹介、施設紹介などが盛り込まれています。

刊行に至るまでの各校の進路担当者の方々に感謝申しあげますと共に、この「進路のしおり」が、保護者の方、生徒、先生方に広く利用されることを願います。

(埼玉県立日高養護学校長 金子有次)

■学校卒業後豊かな生活を送るには、衣食住と経済的な基盤が必要です。しかし、障害者が地域社会の中で当たり前に生活することの必要性が叫ばれて久しいのですが、まだまだすべての障害者にとって必ずしも豊かな生活が保障されているわけではありません。自立した豊かな生活を送るために多くのバリアを取り除かなければならぬのです。

そこで、障害のある人達が地域生活を営む上で考えられることを6つの項目「すまい」「あそび」「すけっと」「おかげ」「ふくし」「なかま」に分け、この号では初めの3つを取り上げ、障害当事者の声や想い、実際の様子や制度などを紹介しようと試みました。これらのことことが障害のある子どもたちの卒業後の生活がより豊かになるための一助になることを願ってやみません。

尚、編集にあたってご指導、ご協力いただいた多くの方々に深く感謝いたします。また、お問い合わせは、右記編集委員までお願ひいたします。

(編集委員 増田)



『進路のしおり』 第4号

発行日

1997年(平成9年)3月15日

編集・発行

・埼玉県高等学校進路指導研究会

障害児教育部会

肢体不自由養護学校小委員会

・埼玉県肢体不自由養護学校 進路指導研究会

宇都木 章 県立越谷養護学校

0489-75-2111

黒古 次男 県立和光養護学校

048-465-9770

磯 輝一 県立宮代養護学校

0480-35-2432

増田 美鈴 県立日高養護学校

0429-85-4391

宮原 本法 県立熊谷養護学校

0485-32-3689

作美 利春 大宮市立養護学校

048-622-5631

表紙絵 伊藤幸枝さん(大宮市立養護学校在学)

協賛 埼玉県肢体不自由養護学校校長会

印刷所

埼玉県社会福祉事業団

身体障害者授産施設

「あさか向陽園」

〒351 埼玉県朝霞市膝折上ノ原2-13

電話 048-466-1411

FAX 048-466-3622